

作成日：2026年3月25日

研究協力をお願い

『一絨毛膜二羊膜双胎における臍帯静脈血流の推移 と妊娠・分娩転帰の関連性についての検討』

研究機関及び研究責任者：兵庫県立こども病院産科 荒井貴子

1. 研究の目的

胎児（子宮の中の赤ちゃん）の臍帯（臍の緒）は臍帯動脈2本、臍帯静脈1本で構成されていますがそのうちの臍帯静脈の血流量(umbilical venous flow volume ; UVFV)は胎盤を循環している血流量を反映する指標として考えられています。一絨毛膜二羊膜（MD）双胎に発症することがある双胎間輸血症候群（TTTS）や一子発育不全（sFGR）、胎児死亡（IUFD）で、両児の間に差を認めたり、その血流量が変化するという報告や、臍帯静脈径（Umbilical venous diameter ; UVD)やUVFVの違いが、それぞれの児の胎盤占有面積と関連性を認めるという報告があります。

そこで、MD双胎の患者さんのUVFVやUVDを継続的に観察し、実際の妊娠・分娩転帰に関する情報を得ることで、UVFV・UVDの計測が、MD双胎妊娠の周産期予後の予測につながるかどうかを検証することを目的としています。

2. 研究の方法

①研究の対象となる患者さん

当院もしくは他院で一絨毛膜二羊膜双胎と診断された患者さんで、妊娠14週までに当院へ受診され、当院で分娩予定の方。

②研究期間

2024年4月16日から2031年3月31日

目標とする患者さんの数は50例を予定しており、目標数に達しなければ延長する可能性があります。

③調査項目

当院で周産期管理を行うMD双胎の患者さんに対し、妊娠14週、18週、22週、26週の4回下記の項目について計測します。

(妊婦健診の際に追加で計測を行います。)

妊娠中の観察項目：

赤ちゃんの推定体重、羊水量、心胸郭面積比、臍帯動脈、中大脳動脈、静脈管の血流評価、臍帯付着部、UVFV、UVDを計測します。

赤ちゃんが生まれたら…

分娩週数、出生体重、Apgar score (1分値/5分値)、児のHb、臍帯動脈血のpH、BE、胎盤を調査します。

そのうえで、妊娠・分娩転帰として、妊娠高血圧症候群の発症、胎児機能不全、双胎間輸血症候群、妊娠34週までの早産などの合併症を認めの方、そうでない方とを分けて、UVFV、UVDについて検討を行います。

3. 研究に用いる情報の種類

2.の調査項目であげた超音波検査で得られる検査結果、患者さんの病歴・妊娠経過、妊娠期間中の合併症についての情報（妊娠高血圧症候群や、双胎間輸血症候群など）、生まれた赤ちゃんの情報など。

4. 研究に協力してくださる患者さんの負担と利益について

通常の妊婦健診に合わせて行い、超音波検査のため患者さんへの侵襲や新たな負担はなく、検査時間が多少長くなるのみです。研究の結果により、すぐに患者さんへ有益な情報をもたらすことは難しいですが、今後の周産期医療の発展に少しでも寄与できればと考えています。

5. 情報の公開

研究内容は、学会発表や学術論文の形で発表する予定ですが、患者さんの氏名等、本人を特定出来る一切の個人情報は調査対象でないため、個人情報は保守されます。

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問合せください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び、知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書及び関連資料を閲覧することも可能ですのでお申し出ください。また、情報が当該研究に用いられることについて、患者さんやその代理人の方にご了承いただけない場合はご連絡くださればデータを削除いたします。また、同意いただけても患者さんの不利益になることはありませんので、ご安心ください。

【問い合わせ先】

650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目6-7

兵庫県立こども病院 産科 荒井貴子

Tel: 078-945-7300